

第 2 部 基本構想

第1章 坂井市の将来像

1-1 将来像

輝く未来へ…みんなで創る希望のまち

～ 子どもたちの夢を育む“ふるさと”を目指して ～

坂井市総合計画で定めた将来像である「輝く未来へ…みんなで創る希望の都市(まち)～子どもたちの夢を育む故郷(ふるさと)を目指して～」については、人口規模で福井県第2位の都市にふさわしい魅力と活力を創造し、市民と行政の協働により、誇りと愛着をもって暮らせる故郷となることを目指して、将来像として決めました。

これまでの計画期間において、その実現に向けて各施策が実行されており、その成果は、市民満足度調査において「坂井市の住みやすさについて」は、77.2%が「住みよい」と回答されており、坂井市の「住みよさ」や「定住意向」については高い評価として表れています。また、同調査における「これから進めていくまちづくりの方針」については、「市民と行政の協働のまちづくり」が最も重要度が高くなっています。

本格化する人口減少時代においても、市民が「住みよさ」を実感でき、持続可能なまちとなるためには、行政だけでなく、市民をはじめ、まちづくりに関わる多様な主体がともに考え、行動し、地域の価値を高めていくことが重要となります。

今後も各施策を継続するとともに、本市がこれまでに進めてきた協働のまちづくりをさらに発展させ、これからもまちづくりの基本は「ひと」とであるという姿勢のもと、次世代を担う子どもたちの夢を育み、すべての人が個性を発揮できるまちづくりを目指します。このようなことから、第二次坂井市総合計画においても、これまでの将来像の理念を引き継ぎます。

将来像の言葉に込められた意味

「輝く未来へ…みんなで創る希望のまち」とは

市民一人ひとりが輝く未来へ向かって、市民や行政、まちづくりに関わる多様な主体が協働し、将来にわたって住みたい、住み続けたいと思える「坂井市」を目指すという意味を込めています。

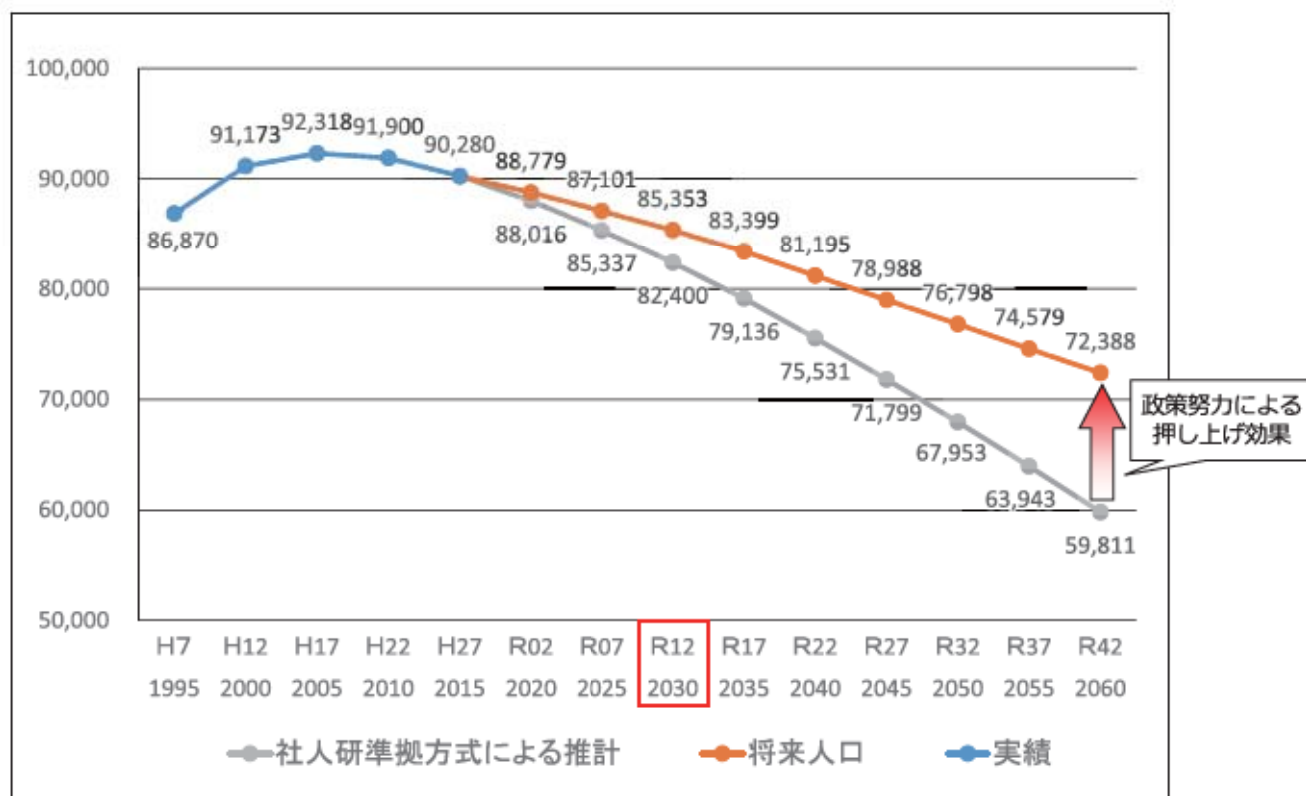
「子どもたちの夢を育む“ふるさと”を目指して」とは

将来を担う子どもたちが、夢を抱きながら自信を持って育っていける環境づくりに取り組むことによって、自分たちも「この環境の中で子育てをしたい」という誇りと愛着をもてる“ふるさと”を目指すという意味を込めています。

1-2 将来人口

坂井市の総人口は、平成17年（2005年）の92,318人をピークに減少局面に入っています。我が国全体の人口が長期的な減少期にある中、これまでの傾向が今後も続くと想定すると、坂井市の人口は、令和12年（2030年）には82,400人と平成27年（2015年）の90,280人よりも7,880人減少することが予測されます。（国立社会保障人口問題研究所準拠方式）

急激な人口減少を防ぐため、様々な施策を展開することにより、出生数の向上と社会動態のプラスへの転換（転入数>転出数）を図り、令和12年（2030年）の坂井市の人口規模を85,353人程度とすることを目標とします。



総人口の実績の推移及び将来人口 (資料：国勢調査(実績))

【将来人口推計の設定条件】

- ・合計特殊出生率が令和12年（2030年）に1.8にまで回復
- ・社会動態に対し年間100人の押し上げ効果が継続

第2章 施策の大綱

第二次坂井市総合計画においては、将来像の実現のために6つの施策分野に取り組んでいきます。

また、社会動向などが急激に変化し、各施策分野だけでは解決が困難な課題が発生することも予想されます。そのため、必要に応じて各施策分野を横断し戦略的に取り組みを展開していきます。



2-1 6つの施策について

1 みんなで未来につなぐまちづくり

豊かな自然環境のもとで悠久の歴史を紡いできた坂井市は、地域独自の文化を培い、市民との強い信頼関係のもとに地域固有の協働のまちづくりを展開しています。しかし、人口減少が進み、社会の担い手が不足し、後継者の確保や事業の硬直化が課題となっています。

地方分権が進み、地域間の競争が今後ますます激しくなる中で、地域の個性を活かし、市民のニーズに対応したまちづくりを進めるためには、市民がまちづくりに積極的に参画していくことはもちろん、市民自らが地域への誇りや愛着をもちながら、地域を形成している一人であるという認識をもって活動していくことが重要です。

そのため、市民のニーズに的確に対応したきめ細かな行政サービスを提供するとともに、まちづくりのリーダーとなる人材を養成することで、地域の個性が感じられる魅力ある坂井市を実現することが重要です。また、市民や団体、NPO法人、ボランティアなどとの協働のまちづくりに向けた取り組みを強化することに加え、民間企業や教育機関など多様な主体と連携し、強みと弱みを補完し合うことで、人口減少社会においても持続可能なまちづくりに取り組みます。さらに、誰もが輝くことができる社会の実現を目指し、男女共同参画社会の実現や多文化共生に向けた取り組みを推進します。

2 互いに思いやり支え合うまちづくり

急速な少子高齢化の進展やめまぐるしく変化する社会情勢、疾病構造の変化などにより、住民福祉を取り巻く課題は多様化、複雑化しており、包括的な支援や市民が「我が事」として主体的に支え合う関係が必要です。また、本市の子育て環境は高い水準にあると評価されている一方で、核家族化や共働き家庭の増加などに伴い、住民ニーズは複雑化、多様化しています。

これまで以上に地域や行政、専門機関などが連携を強め、誰もが健康で安心して自分らしく生き生きと暮らせる地域社会を実現していくことが求められています。

そのため、様々な社会保障制度を整えるとともに、社会的自立や経済的自立に向け、個々のもつ力を活かしながら活躍できるよう支援し、住み慣れた地域で互いに思いやり支え合いながら安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。また、若い世代が家庭をもち、子育てに夢をもてる地域の実現に向けて、子どもを安心して産み、育てられる環境づくりへの支援体制や育児環境の充実など、地域や民間企業などと連携し、総合的な住民福祉の向上に努めます。

3 学ぶ意欲を支えるまちづくり

人口減少と少子高齢化が進展するとともに、子どもたちを取り巻く環境が急激に変化している中、次世代を担う青少年の健全な育成は重要な課題となっています。

坂井市が将来にわたって、夢と希望に満ち、光輝いていくためには、人づくりが何よりも重要であり、坂井市の未来は地域を担う子どもたちに委ねられています。また、市民一人ひとりが郷土に愛着をもち、すべての人が生きがいをもって暮らせることが重要です。

そのため、学校や家庭だけでなく地域社会全体で人づくりを担う重要性を認識し、感情豊かな人格形成の支援、グローバル化や情報化の進展に対応できる健やかで自立心をもった人材の育成など、子どもたちの夢と希望を育むことができる教育環境の整備に取り組みます。また、生涯学習や生涯スポーツの推進に取り組むとともに、地域固有の歴史や伝統文化、芸術などに関する知識を深め、それらを守り育てる心の醸成に取り組み、次世代に引き継ぎます。

4 自然と共生できるまちづくり

人類の産業活動の拡大に伴い、地球環境を取り巻く様々な問題が発生しその対応が課題となっています。

地球温暖化防止や生物多様性に向けた取り組みなど、地球規模の環境問題に対応するため、自然と共生する持続可能な社会の構築に向けた取り組みを進めることが重要となっています。また、四季折々に変化する地域固有の大自然や歴史文化が築き上げた伝統的な街並みは、坂井市が誇る美しい故郷の景観であり、次世代に引き継ぐことが重要です。

そのため、里地・里山などの身近な環境保全に努めるほか、市民と協力して3R（※11）の推進や廃棄物の適正処理を進めるなど、市民一人ひとりが環境問題を正しく理解し、豊かな自然環境の保全に努めるとともに、持続可能な循環型社会の構築と環境について自ら考え行動できる人づくりの推進に取り組みます。また、美しい海や山、川、田園など自然景観をはじめ、地域固有の歴史や文化に育まれた街並みの保全、さらに、誇りと愛着をもって暮らすことのできる故郷の創生に向けて、市民とともに取り組みます。

5 地域資源を活かし活力に満ちたまちづくり

坂井市は、広大な農地が培う県下有数の穀倉地帯として農業が盛んであるとともに、水産業や畜産業、林業などの第1次産業が根付いています。また、テクノポート福井やソフトパークふくいをはじめとして多くの企業や事業所が立地する産業都市であることに加え、一般国道8号や主要地方道などの交通の利便性から商業施設が集積しています。さらに、日本有数の景勝地である「東尋坊」や日本遺産に認定された「三国湊」、現存12天守の一つである「丸岡城」、文化と科学の複合文化施設ゾーンである「文化の森」、農業を通じた交流を行う「ゆりの里公園」や「いねす」など、個性的で多様な地域資源を有しており、毎年多くの人を訪れています。

一方で、人口減少の進展によって地域経済への影響が懸念されるなか、足腰の強い産業基盤を構築することが重要です。

そのため、農林水産業の振興に向けて、生産物の付加価値の向上や担い手の育成・確保などに取り組みます。また、商工業の発展に向けて、地域に根差した商業の振興や基幹産業の強化、新規創業の支援、雇用環境の充実などに取り組みます。観光業の振興に向けては、本市の誇る地域資源にさらに磨きをかけ、周辺自治体との連携を強化し、国内外からの誘客による交流人口の拡大を図ります。

6 安全で快適な暮らしを支えるまちづくり

全国各地で地震や台風、集中豪雨などによる災害や、子どもや女性、高齢者が巻き込まれる犯罪が発生するなど、社会的不安が広がっています。また、高齢化の進展による移動手段の確保や空き家や空き地の増加などの課題が生じています。

自分のまちに誇りをもち、誰もが安心して快適に暮らすためには、安全で健全な生活が保障され、精神的にも落ち着いて生活できる環境づくりや都市基盤整備が必要です。

そのため、市民が安心して安全に暮らせるよう、地震や豪雨、豪雪などの災害に強いまちづくりの推進や、防犯体制や交通安全の強化、公共交通ネットワークの充実と利便性の向上に取り組みます。また、地域と連携し、空き家や空き地の発生抑制、適正管理の徹底を図るとともに、魅力的なまちづくりへの有効活用に取り組むことや、身近な生活道路や公園・緑地の整備など潤いのある都市空間の充実を図ります。さらに、快適な暮らしの実現に向けて高度情報化社会に対応した情報通信体系の整備に取り組み、市民が有効活用できるだけでなく、情報格差を減らす環境づくりを推進します。

2 - 2 時代の変化に対応した各施策分野の連携

(1) 最適な組織体制の構築

多様な政策課題に対応するため、市役所内における部局を横断した体制づくりなど、最適な組織体制の構築に取り組みます。また、社会経済情勢の変化によって行政だけでは解決できない課題が顕在化するなか、公・民・学など、まちづくりに関わる多様な主体と連携し、実効性をもった組織体制の構築に取り組みます。

(2) 効率的で効果的な行財政運営

限られた財源を有効活用し、最小の経費で最大の効果を発揮できるよう、事業の検証・改善を適切に実施し、人口減少社会に適した効率的で効果的な行財政の運営に取り組みます。また、寄附市民参画制度の活用等、財源の確保に努めます。

(3) 官民が保有する社会資本のさらなる利活用

各政策分野の取り組みを連携して推進するため、行政財産の柔軟な活用の検討など、公有資産が最大限効果を発揮できるよう取り組みます。また、民間が保有する空き家や空き地の利活用を通じた地域の活性化など、官民が連携した社会資本の有効活用に取り組みます。

第3章 地域づくりの基本方針

これまで本市では、きらめく日本海や美しい海岸線、四季折々の移ろいを感じる山林や田園風景など、豊かな自然環境や地域資源、そして、個性の異なる地域の特性を活かしたまちづくりを展開してきました。今後、人口減少社会における持続可能な都市構造を実現するためには、これまでの取り組みを継承しつつ、拠点となる地域や多様な都市施設のネットワークを強化し、坂井市全体の都市の利便性や魅力を向上させることが必要となります。

このため、将来像の実現に向けて、ネットワークの充実した、個性あふれる豊かなまちづくりを進めていきます。

●地域の個性を磨くまちづくり

坂井市は、生活や産業、文化の中心となる個性豊かな地域が存在しています。それぞれの個性と地域資源を磨き、自然環境と調和のとれた美しい都市の形成に向けて、市民の日常的な生活環境やコミュニティ活動の場の充実に加え、地域の特性にあった賑わいの創出を図るまちづくりを展開していきます。

■農地と住環境が調和した彩り豊かな地域

県下有数の穀倉地帯がもたらす豊かな自然の恵みと心地よい住環境が調和した、癒しと潤いのあるライフスタイルが実現できるまちづくりを推進します。

■歴史と文化が息づく地域

北前船交易で繁栄した「三国湊」や現存12天守の一つである「丸岡城」の歴史や文化を大切に、誰もが誇りをもって住み続けられる質の高い生活空間の形成や賑わいの創出に取り組むことによって、地域の歴史や文化を活かしたまちづくりを推進します。

■自然と共生し魅力が活きる地域

青い日本海や越前加賀海岸国定公園に含まれる東尋坊や雄島など風光明媚な海岸線、竹田川の清流に育まれた森林など、豊かな自然環境を活かし魅力を創出するまちづくりを推進します。

■活発な商業と住環境の織り成す地域

一般国道8号や主要地方道福井金津線（嶺北縦貫線）、JR北陸本線など南北に走る交通網を中心に商業施設が集積し、県内有数の文化・教育に関する施設も整備されていることから、居住環境をさらに充実させ、活気に満ちたまちづくりを推進します。

■福井臨海工業地帯を拠点とした活力ある地域

福井臨海工業地帯（テクノポート福井）を拠点に、産業の振興や企業誘致等を図り、地域産業の充実による活力あるまちづくりを推進します。

●ネットワークの充実したまちづくり

坂井市内の個性豊かな各地域の魅力を高めるとともに、それらを連絡する道路網と公共交通のネットワークを充実させることにより、目的に応じた様々な組み合わせで連携して総合的な都市力を発揮することを目指します。

■市内のネットワークの充実

幹線道路網、公共交通ネットワークを充実させるとともに、市内の人のつながりを深めることで、地域コミュニティの強化と坂井市全体の連帯感を一層醸成します。

■市外とのネットワークの充実

北陸新幹線福井・敦賀開業など高速交通体系の進展に対応するとともに、周辺都市との広域的な連携を強化し、市民の利便性向上や国内外からの交流人口の拡大を図ります。

■地域づくりの基本方針図

